

令和3年2月24日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）不登校対策について

個別最適な学びの環境について、あらゆる支援が必要である中、不登校対策の取組をどのように進めるのか、教育長の所見を伺う。

（答）

不登校児童生徒への支援につきましては、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指せるよう、個々の状況に応じて、様々な関係機関と連携した取組が必要であると考えております。

本県では、こうした考え方を具体化し、個別最適な学びを推進するため、学校外での学びの場を提供し、社会とのつながりを促す「東大ROCKET IN 広島」の実施や、学校内におけるスペシャルサポートルームの設置など、多様で質の高い学びの実現に向けた取組を行っているところでございます。

スペシャルサポートルームを設置した学校におきましては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、児童生徒一人一人の状況に応じた効果的な支援を行うことで、学校がより安心できる居場所になるとともに、市町の福祉部局など関係機関との協働的な支援についても、学校全体としての取組が進んでいるところでございます。

県教育委員会といたしましては、スペシャルサポートルームにおける実践から得た具体的な支援方法や好事例を、様々な研修やホームページでの発信などを通じて、市町教育委員会及び学校に広めていき、今後、デジタル技術の効果的な活用も含め、全ての子供たちが安心して学べる環境の構築に向けて、取り組んでまいります。